

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

|         |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| Blue    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Cyan    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Green   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Yellow  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Red     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Magenta |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| White   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 3/Color |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Black   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



流麗名寄

|      |
|------|
| ル 4  |
| 3747 |
| 1    |



門九4  
3747  
1



筑前名寄上卷目錄

涉笠郡 十九町

竈門山 鎮西 安樂寺 幸橋

湯原 思川 石鎚川 條川

白河 條川 御笠社 大野山

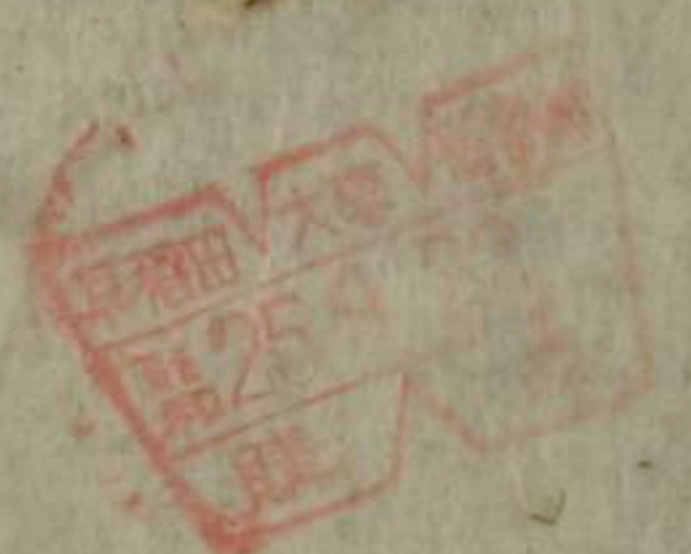
大城山 城山 蘆城 水城

水城関 刈萱関 原山

那珂郡 七町

五

卷二目錄



博多 荒津 任直 八柳湊

蓑嶋 志賀 濡衣

糟屋郡 五所

香椎 産官 箱崎 千代松原

阿部嶋

筑前名寄上巻 具原篤信編輯

沙笠郡

竈門山 茨瀨山也又山笠山と云い高山なり  
山上又玉依姫の神社も國の中央又是も  
西土城跡あり此山に昔は神を祀り  
今も亦此國の鎮守と稱し山上又石門  
乃りまことのこゝなりあり又竈門山と名  
く應神天皇降誕生の内山産湯と汲く

水あり此山上乃景致他亦  
注境あり山上日僧坊あり

加太山まきと東谷と失く落つもの

新築古と日筑おもしろく國は約分り  
いへりてりくねく南の形は竈門の爲神は  
鏡を尊るとしてとてあり

南ふまて新築りけり

東酒

はつりくともおもしろく魚さくや  
有系極働

は鏡今も竈門山の神殿は並りあり

尺二寸二分あり

祝存系朱標

たりの者ひまもことと新築り

加太山まきなり火さく花・道信法師

物はふまて西谷の山あり

拾遺集十八は

栲桓姫

と山の中まなすりてゆるる有みらつる  
ゆるる末まふくかまつらるゆるる

春のちし秋のころかまへる

ゆるるまきりともありと持るる。元博

是の上のと元博つらるる右の連もなり

六帖 ゆるり西よりあつるるるる

ゆるりつらるるるるるるる

鎮西 鎮面府のゆるるるるるるるるるるるる

又箱のゆるるといふるるるるるるるるるるる  
ゆるる東観世音寺村のゆるるといふるるるるる  
ゆるる西乃田のゆるるといふるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる  
ゆるるゆるるゆるるるるるるるるるるるる

乃 藝者日備へ行ふ言友の上首は太宰の  
帥といふお申すは教は是日御一為一推の帥  
は左邊の大臣或大申細言是日御言を  
次乃存故大教也或言はるり

松玉系

いふへの光もな故さる新ん

鑑むる物のよの玉垣 兼鎮

安樂寺 太宰府天満宮の地なり別日る

あゝとていふ

けいけいけいけい安樂寺にて讀ゆりたり

金糸系

辨恒よりそりそり花

そとにそりそりおわらむるかなは太細

新玉系

情なりお教人つしわらや

あゝとていふお梅乃とらえ

右の奇つらつらおわらる者のお安樂寺

梅を折るゆかり東の養子とていふ

けいけいけい

幸の橋 八雲抄藤原系より信濃の國に入  
一 於此より東本系の奇蹟あり書あり  
一 ともありては必日あり故是とも一 あり  
名あり又世に印行の名あり角抄にもあり  
國日あり今本系府より天神の山極和  
撰本系日好和の海日波方橋ありと云  
はるるあり

夫本 此の事記名するも其意を尋ね

たろきいといのそん松とらん 二武吉遠

湯原

或書日湯原の左宰府の事ありあると

いり藤原系より大和或筑前と云ふ事あり  
榮系よりそり奇に左宰の沖大伴との  
左宰府よりある時ありやう日及び約あり  
筑前より其は是とも一 湯乃系日やあり  
鶴のうむのほりきほはるるあり一 かなり  
かきと云ふ事あり水谷乃小路より和のわのお

とあり湯の原と云ふあり申すは日太宰府よ  
手取取たり昔は此湯ありて湯ありしと  
里人といふ今も湯の原なる事と云ふあり  
のらまひ

万葉六

湯の原は初くありてありしと云ふ

いふふふふふ付日と云ふは 神代傳

夫本

付日ぬ社の流伝は乃と云ふ

かくて入つるの昔と云ふ人 仍家

恩明 今此宰府の所はの毎日たると川原

は川は螢多し他所の螢より大也在るも

この川は菅沼といふ事

後撰集

この川は流たるとありてあり

と云ふ人ありて消りや 伊勢

新勅土

思川といふに今も水くき伝

うおたり流るも神にぬきたり 伊勢

後撰三

山原の川は今も流るあり



いろえらりあつ下日とあはく 定家  
新事撰十一  
なまきそめなはたふあは事ふ川

あふぞもきねさのうかあ 信長具書  
古今六帖  
まろわもてしとてうふ事碓川

いほまふぬまこく海かろはれ 秀之  
新撰撰三  
文ゆはふおなりあふ事おとむ久

石碓川 天邊まのわ日あつ川也思川の上りてお  
碓川にぬぬくまをふ事せん 屋敷明  
信家

なつ海まきとてふあつとありて名もくは  
一万代  
うと山とあつとて事はとてふ事れ

いとあつ川日弱なりて事那事 為松  
深川 天邊まの南日あつ小川なりて深川と

もいあつ雲抄もあつとあ川といへりちてせん  
あつりて事あつ深川事い筑前太宰府と

つとてり  
伊勢物語  
北見川をさつと人といへりて

いろ日なりてふよのわりの屋敷 業平

女のもまつらゝら

後撰十四

はくしなるさうとあらふさうなけ

あやたきさうじんさうじ内ちく 春原真玄

同也

こころてふあつたがてふあつた

ふつらゝ日なるさうじんさうじ くらげ

堀川院百首

人らるるにてさうさう申く

あひとあつたさうじんさうじ 徳源

於巻十二

世は川よとさうじのさうじん

なまきさうじんさうじんさうじん 徳源

白川 今井宰府の町乃西南日あつた

後撰集十七巻まつら白川さうじん

とゆゆり日たか藤原具範朝臣のまじり

さうじんさうじんさうじんさうじん

のさうじんさうじんさうじん

如く物言ふる事思装もさる川を

いふ事くじふとくせよんくさく女控位極

右和物語まむと玉のさく思装い白川

乃ちつとくむさくぢわもくかたさあり

一説白川の肥後とあるより及し物言ふ事

の大裁のさるりさるり水にけり取なむ

右宰府の事き取は是とさきり又さ

物言ふ事純友さるりのつとく日大裁小舟好

右さるりて控位のおるむ家のお事あり

右取らぬいふ事あむりさるり

右さるりてさるり取らぬいふ事

今右書取らぬいふ事純友の事

右取らぬいふ事純友の事

右取らぬいふ事純友の事

右取らぬいふ事純友の事

右取らぬいふ事純友の事

もたふししうきを好ぶの松松のさう  
なるまのさうはらうわう純なとふは  
を家府まいつりし向の事なる一後撰  
集ふ存原興範とくきを和物語ふ小  
路好古とくきをいつりし向の事なる一  
府まある白川なる一八雲抄も或る  
とんとくきをさうはらうわう純なとふは  
取あま山城 奥列 越中 筑前とくきを

此本の書ふに肥後ふとくきをさうはらうわう純なとふは  
正世印行き一太名壽松葉集なる一  
書ふとくきを筑前ふとくきも加ねなる  
魚

深河 二日市村水なり通古なる一と村の坤  
乃方は五町とあると川の急乃田の名と  
も深川と云はるる抄もけ國ふある一  
記一終一宗祇持南抄と深川ハ新曆都

漆生く云取ふありといひり

拾遺雜下

名ふとくくくもくく漆川

さほくくく人さぬおあり

一説水にありあり

法道森

雑掌

の張乃所の東水あり大

道く二所ほあり今昔乃森の楠一株

ありきくさきくくく山田村は屬

新子載系

大跡なるみさのゆりのゆき

うきくくさくくくそのさくくはき

万葉

さぬはありといひおあり

みさのゆり神くさく

古事大監  
大伴百代

名考

大跡なるみさのゆり

さぬはありといひおあり

大跡山

山並本林の道あり東南の方には寺

山の西乃ゆりさきて大跡といふ

あり大跡の郷の名なり

万葉

大跡山ありとくくく

おきまの風よ月をさへりて  
山に信長

大塚山 おきまの風よ月をさへりて

おきまの風よ月をさへりて

大塚山 おきまの風よ月をさへりて

大塚山 おきまの風よ月をさへりて

大塚山 おきまの風よ月をさへりて

大塚山 おきまの風よ月をさへりて

大塚山 おきまの風よ月をさへりて

いぢきくさるゝのあきくさるゝ

おきまの山をさへりて

大塚山 おきまの山をさへりて

おきまの山をさへりて

おきまの山をさへりて

おきまの山をさへりて

おきまの山をさへりて

おきまの山をさへりて

の山はこのせりやうめりかきし深垣系等  
小嶽乃山の弁小別日このまの山をさうきい  
おとらふあやかりたりし一筑後守葛井の  
連ひしり寄はるるはを宰府より筑後へ行道  
小この山ありらうさうひなり

万葉五 梅乃香らうらうらつとさくもかよ

このまの山は雪ふゆりはく大伴良代

右あつかり華大宰帥大伴宅宴梅花歌廿六首

乃内日あり

美紫系小を宰帥大伴上系之後筑

後守葛井連大成悲歎ひな化歌一首

今よりいさやまはらうらさけい

まうかきとまりぬし女の松

あしき 野川山 宰府の南日あり芦城の

跡ひしとく昔を宰府より行きしうつまの

君あつかりや芦城より末の山といふ瓜はこしあかし

とやん

大宰少貳石川是人物長遷任餞于筑前

國蓋城隍家歌

あつらひ神もつとるんよ草枕

つゆゆくゑのあまのいづるま

玉運あはれの川をくみんまは

ら海津世まで日三つあやも

女師を扶養す一と蓋城隍

大宰少貳

あつらひ神もつとるんよ草枕

萬葉曰右二首作者未詳

あつらひ神もつとるんよ草枕

つゆゆくゑのあまのいづるま

玉運あはれの川をくみんまは

ら海津世まで日三つあやも

女師を扶養す一と蓋城隍

あつらひ神もつとるんよ草枕

大宰少貳



水城 今昔の故蹟を尋ねては水城の

跡を尋ねては水城の

跡を尋ねては水城の

跡を尋ねては水城の

水城 日本紀曰天智三年筑紫大

堤城を築くは水城の

乃、水城の

乃、水城の

根盤 十丑角長東西四百五境の周いつる

時、水城の

水城の

水城の

水城の

水城の

水城関 水城乃大堤の東乃山を以て通關

小石川

岩垣乃水城の築よしと述ふ

うらたれおとさるぬむらじ

右の奇乃詞書よし奇に筑紫へまゐり

小府よ入日水城の築よし小武府なる

む久よしあつまり事りなるよしあり

一説よし水城の築前よしと述ふ

かりに宰府よし入日小武府なると述ふ

事ら筑紫の水城乃築たり事ら

川の 通在賀村乃水城の堤のあり

通在賀村は属なり今に松二株あり又

築城のありて松ありもか南乃

是実事なりしと云日本紀天智

皇三年筑紫の國よしと述ふ

中へいりて時よしと述ふ

と智天皇筑紫に居たり一時行人をなめ  
らるる母一節の事なりといふ

新古今十六

かろくやる聖書はのこるしはるる

人にもぬる事なりなり。尊家

深垣系

さるるとも志のやち朝も若らん

夕立ちの影、ふりやるを起

原山 或書曰筑紫に宰府の地あり今葉  
た宰府の地ありあま若くは承平信坊多し

は王院の別取なりといふ今もは元院  
乃は孫八人宰府に備文の社僧はは  
らなむなり

とら山乃さやの藤花ありゆい

鳥のねさるるもあなぬこのよふ内家

那珂郡

博多

いみし唐船の事なり是し律なり

日代に乃記録もおわくはるるありけ

書ももさるるなりいつ乃時ありまきまなりとい  
わとくも三代實録よりたみなり  
菰志の太保と記あり日本洋紀は嵯峨と  
皇弘仁五年菰志坊多保日新羅の人漂  
著の事とさるる嵯峨の伊予とて日博  
多乃号の事はさるる久しと記せ  
たりとてさるる邑なりとて泉の津と  
もい

段指さしはくしなり乃時んときと記す  
さるるに後の菊のおもいなり  
なりなり

さるるさるるさるるさるる

花なりなりなりなりなりなり  
城川伝後百首  
らなをさるるの件なりなり

まらなりなりなりなりなり  
兼昌  
形出なりなりなりなり

志乃新羅の山と云はるる 山臺

志津海濱崎 三代實錄云非阿部

志津とある博多の志と云はるるやうな

志津と志津の志と云はるる博多の志

志津と志津の志と云はるる博多の志

志津と志津の志と云はるる博多の志

志津と志津の志と云はるる博多の志

志津と志津の志と云はるる博多の志

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

志津乃海濱干潮と云はるる

住吉 住吉村は博多の南六町にあり高野住吉  
 乃神社此村にあり伊勢志賀筑紫日向  
 志小戸の擲乃あつみ穂原あつみにあり志賀志賀  
 志賀志賀志賀志賀志賀志賀志賀志賀  
 内まこつ底筒男か余の中筒男の余の表筒男の余の又  
 三々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
 身一妻小妻小妻小妻小妻小妻小妻小妻小妻  
 の住吉大神の神功皇居新羅あり之を

新しんのの後ご神かみ託たく事ことありては神託ありて  
 律令書に載りてありては神託ありては神託ありて  
 ありては神託ありては神託ありては神託ありて  
 吉の三神志賀の三神志賀の三神志賀の三神志賀  
 吉の三神志賀の三神志賀の三神志賀の三神志賀  
 小戸はありては神託ありては神託ありては神託ありて  
 家いえ初はつ法ほふありては神託ありては神託ありては神託ありて

といひ今日日向國といふ時出生しといふ  
神なく又小戸橋橋原なるといふ  
おまゝを出生の神おまゝといふ  
と立花青木小戸なるといふ  
日本紀私記社中抄及宗御記に記す  
一々小戸の橋乃柱の原に筑築ありとい  
ひ一々日本紀に筑築日向と書し  
細あり事なりと記す

わしとてありぬ  
後在令神祇

西乃とてありぬ

而してわしに信言乃神・ト部意也

神の湊 地多しある古原社の入一湊也  
崎乃松原の西地多し東に入海あり  
しり物名方那阿川とて入海なり  
此神の湊といひしりし加し海にたけりぬ  
今地多し入定寺とて本寺の入りしり

系町と云取乃港橋（新編）下々東西は海通也  
又此神の在るの磯よりなり港橋と名つる

一も此を乃湊の高松と云はるなり

塔後採奈奈 かなたなるまきく下るなりなまきくまは

東なくささく神のちかよ（新編）

張古今 ちかよなるまきく下るなりなまきくまは

ちかよなるまきく下るなりなまきくまは

子五石書前七 出まきく神なるみ非なる波なる

年乘らふねの教つらるん

新編 いまをんちかよなるまきくまは

ちかよなるまきく下るなりなまきくまは

この 義嶋 伯耆乃南はあり村の名なり一説なり

まきくのうらまきく下るなりなまきくまは

まきく非珂部伊知郷（新編）義島と云はるなり

まきく山一上りまきく下るなりなまきくまは

國はあはれをまきく下るなり



教  
物  
...  
...  
...

み...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

志。賀 嶋 山 浦 濱 神 津

志賀乃嶋の福島の博より三里ありあり  
家多し一三取に神社あり此神は伊賀  
儀言福に担う原よりくく玉へ此九神乃

内乃三神より位右大神と同胞の神と  
名あり社なり日本紀意事紀古事記三  
部の事書に云此神の事云云なり日本  
紀才一卷に底津少童余中津少童余表  
津少童余是阿曇連等よりつきたり非  
たつとありん即此神也け嶋首の糟を部  
よ属たり

一の部三  
...  
...

つた乃とくしはとわもるなりく日 石川

萬葉集云石川朝臣若子号曰少昂子 ワカイヤウコト

月七 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月八 入候古う いづれのちていふをなほくはる石か

月九 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月十 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ 人色

月十一 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ 焼塔の

かふいひもあふれ塔やう桐風といふ

月十二 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月十三 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ 山上信長

月十四 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月十五 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月十六 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月十七 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ 石川朝臣

月十八 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ

月十九 志賀乃あふれ塔やう桐風といふ 大守大監 大侍省好貞

日七 子とわが娘はねりてはるかとさかへ

あゝいふもなきはなはたのそめ神

日十二又於まに ことの誓き病よとせりいりその

いひのうはれはなうらうらうもうなはらに

かろ人の志はせきまは船出して

情多乃沖にまよつたかりはれ

津波をぬくころきりぬしあう船力介

うらりれぬのつらもむらうらうと玉也

子とわが娘はねりてはるかとさかへ

あゝいふもなきはなはたのそめ神

ことの誓き病よとせりいりその

いひのうはれはなうらうらうもうなはらに

かろ人の志はせきまは船出して

情多乃沖にまよつたかりはれ

津波をぬくころきりぬしあう船力介

うらりれぬのつらもむらうらうと玉也

あゝいふもなきはなはたのそめ神

一日もいふもなきはなはたのそめ神

いふもなきはなはたのそめ神

あゝいふもなきはなはたのそめ神

あゝいふもなきはなはたのそめ神

あゝいふもなきはなはたのそめ神

あゝいふもなきはなはたのそめ神

あゝいふもなきはなはたのそめ神

くみいふまて世むとあはらしなまを  
あよ海人といひて云はしは事とてさし  
やう系の作君まけはくあなくあな  
へさしつものしりなとぬまをさか  
つふといひてさしつるまをさか  
海人院事つてさしつるまをさか  
よ云らつては是をさしつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか

御書上巻

くせいむとあはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか  
こらまはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか  
らつとあはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか  
まはむとあはれつるまをさか

御書上巻

名おほしうたてぬまふぬまうと云傳へあま  
もよこゆるこゝむいあけ墓むしう聖<sup>きり</sup>福ち  
新<sup>あらた</sup>西<sup>にし</sup>門<sup>かど</sup>のこゝそと又ちうしおゆきせうあうつ  
しそ今の新橋松原の西乃橋まの橋あひ  
東<sup>ひがし</sup>石<sup>いし</sup>堂<sup>どう</sup>口の川<sup>がは</sup>まき道<sup>みち</sup>なるふ池<sup>いけ</sup>のうらりまを  
石<sup>いし</sup>とまうしときり又乃<sup>の</sup>墓<sup>むら</sup>むじとあけらみ  
奇<sup>き</sup>二<sup>に</sup>首<sup>うぶ</sup>

ねまうしとむねまうしとむのねまうし

なうまうたふなうらうあけらみ  
浦<sup>うら</sup>木<sup>き</sup>乃<sup>の</sup>まうらうつとけうとらう  
なまふまふまふとあけらみ  
たの二<sup>に</sup>まうまうらうあけらみ  
古今八詩可  
うまうしとむねまうしとむのねまうし  
ねまうしとむねまうしとむのねまうし  
まのまうしとむねまうしとむのねまうし  
つわてし

後推 香推の宮に於て人事の始むる所也

香推の宮に於て人事の始むる所也

香推の宮に於て人事の始むる所也

香推の宮に於て人事の始むる所也

香推の宮に於て人事の始むる所也

糟屋郡

香推宮 海浦渡 綾杖

此の宮に神功皇后の御社也故曰神功皇后

乃神事以香推大御神と申す仲哀天皇此

亦曰く崩御して玉より玉の枝と推のまじ

りて玉の枝と推のまじりて玉の枝と推のまじ

りて玉の枝と推のまじりて玉の枝と推のまじ

りて玉の枝と推のまじりて玉の枝と推のまじ

りて玉の枝と推のまじりて玉の枝と推のまじ

りて玉の枝と推のまじりて玉の枝と推のまじ

りて玉の枝と推のまじりて玉の枝と推のまじ

屋より海を引くより再び埋るるの  
 鹹塚<sup>しほづか</sup>而乎甲冑<sup>かぶと</sup>埋るるの  
 塚<sup>づか</sup>なりあり又あやねとく  
 あり此れ地<sup>ち</sup>所<sup>ところ</sup>なり高<sup>たか</sup>根<sup>ね</sup>の波<sup>なみ</sup>と  
 舟<sup>ふね</sup>もさし交<sup>まじ</sup>り今<sup>いま</sup>乃<sup>すなは</sup>淡<sup>あは</sup>男<sup>おとこ</sup>所<sup>ところ</sup>の  
 水<sup>みづ</sup>乃<sup>すなは</sup>う<sup>う</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>由<sup>ゆ</sup>き<sup>き</sup>と  
 船<sup>ふね</sup>もさし交<sup>まじ</sup>り今<sup>いま</sup>乃<sup>すなは</sup>淡<sup>あは</sup>男<sup>おとこ</sup>所<sup>ところ</sup>の  
 水<sup>みづ</sup>乃<sup>すなは</sup>う<sup>う</sup>る<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>由<sup>ゆ</sup>き<sup>き</sup>と

卷之廿九

舟なる人<sup>ひと</sup>一<sup>ひと</sup>者<sup>もの</sup>淡<sup>あは</sup>男<sup>おとこ</sup>所<sup>ところ</sup>の川<sup>かわ</sup>入<sup>い</sup>海<sup>うみ</sup>とて  
 かりし故<sup>ゆゑ</sup>香<sup>か</sup>推<sup>おし</sup>の波<sup>なみ</sup>といふる也<sup>なり</sup>と云<sup>い</sup>ふ人<sup>ひと</sup>ありと  
 古<sup>ふる</sup>舟<sup>ふね</sup>乃<sup>すなは</sup>こ<sup>こ</sup>は<sup>は</sup>日<sup>ひ</sup>ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>る<sup>る</sup>さ<sup>さ</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>へ<sup>へ</sup>の<sup>の</sup>波<sup>なみ</sup>  
万葉六  
 いさやこら<sup>いさやこら</sup>香<sup>か</sup>推<sup>おし</sup>乃<sup>すなは</sup>淡<sup>あは</sup>男<sup>おとこ</sup>所<sup>ところ</sup>の  
 神<sup>かみ</sup>人<sup>ひと</sup>好<sup>この</sup>む<sup>む</sup>る<sup>る</sup>新<sup>あらた</sup>菜<sup>なま</sup>つ<sup>つ</sup>と<sup>と</sup>こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup> 帥<sup>し</sup>大<sup>おほ</sup>傳<sup>のつた</sup>之<sup>の</sup>  
 日<sup>ひ</sup> 時は<sup>ときは</sup>風<sup>かぜ</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>か<sup>か</sup>り<sup>り</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>香<sup>か</sup>推<sup>おし</sup>こ<sup>こ</sup>ら  
 志<sup>こころ</sup>和<sup>やわ</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>玉<sup>たま</sup>必<sup>かならず</sup>深<sup>ふか</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>也<sup>なり</sup>  
天武  
小治政

卷之廿九

隆存つとむ太宰帥たさいすしは二つふたつのたふく海うみのつひ  
香か投な涉せ社しゃもさういふことなりことなりは神かみまことめ  
とてあるとてある 縁ゆかりの字あざな減へらぬへりひらりは枝えだの葉はとて  
伸のびのううへへ日ひささるる固こ縁えん  
ありといふなりありといふなり

合あ葉は葉は九く  
子こ早はや振ふ加か内うち名な之の枝えだの葉は根ね

二ふたつつののささははららるる者ものををまますすことこと  
神かみは大おほ無む武ぶ氏し

新あらた古ふる七しち九く  
ちちとともも柳やなぎの香か振ふののささののああやあ根ね

神かみのみのみささららるるははささるるなりなりなりなり  
新あらた葉は換か換か十六じゅうろく  
ははささららるるしし香か推おののささととなりなり

ととささききここししああららるる魚ういののささららるる  
大おほ個こ々々 極ごく位ゐ

右みぎ太た宰さい帥すしももううささららるるててゆゆりり分わけけ人ひと  
ららららししひひららるる事ことなならんらん

おおままりりををささららるるゆゆりり分わけけ内うち海うみ

志し和わひひ乃のちちととのの東あづまままたたくく也や 内うち海うみ

かかをを内うちのの志しととをを音ねおお通とるるなりなりなりなり稱なづをを



古今名くもあつて言説ありあつたりな  
ら。その内志力あり推の字は青なり群  
狐用く和語とをり例あり  
後古今十

八幡宮ありおふつ志和えい志つるへの

うゝ力持もつりはうゝくも 後抄

産宮うぶのみや

八幡宮あり日守紀日神功皇后新  
羅あり詢り新日く後應神皇御孫と  
り取たり由へうとといふとむじうはれと牧

田と云はるるありを肉け取日天のり  
幡うりし神号と八幡大神と名つた  
事新八幡宮ありつるもあつては取誕  
おふつ八幡宮ありつるもあつては取誕  
生乃地やまは是はくはるる一守石槐  
の末は取身くはるる子とつるもあつては  
事慈鎮和尚の愚取抄八幡愚童訓  
名もあつて今も槐の末あり神事也

子安乃来云是之内槐を寢臥之  
之くうりーちり子母秘録云はるの  
醫書にも槐の本は東よりくる故に  
孕婦こゝろはさうしじまを産むやまゝに  
しり皇后槐の本はとつて産むる  
もはまかりー  
万人集  
福人をくくじらひありてを  
うらむやまゝ有らぬとてを

於王  
けさくも初にわらうとのを  
系統に天もさうありてを  
素  
朝日と云ふまはれぬとてを  
くもはてを世にうのみや 西行  
箱崎 延喜式より那珂郡とありふの糟屋  
郡に属する地有る菅津の浦と云神功  
皇后八幡宮誕生乃内胎衣たなを著し入  
おさめむりともありぬとて

但浮屠氏より戒定惠の三學乃箱派  
 うつう取なりぬる名つるものとよむれども  
 此佛は法いさく本邦へもつたれども言  
 信しつてま取のまうもうへ一松とまう  
 乃松と云俗に弟松ととり延喜の御時八  
 幡大神の心託宣よりりて教國降伏の心  
 字は宸鑑まゑと書しつて神祇の心托の下  
 日教行ふとあり心社の海邊にありて乾

るまよむしんひあふりて教國降伏は三つ  
 一はまういりまう一は箱派を海邊に  
 ありて他邦にもまうなり僅条よりりて人の  
 目には驚くは  
 於此二六  
 後世もつたつて人々をまうたれども  
 まうのまうを乃らひらひらぬは  
 後撰十九  
 そのまう人々のまうははははまう  
 松とまうをまうをまうと申すに

後百七 千代松原神代より一箱崎乃

堂のいしをたきりかたの字は

右筑前國箱崎の文持寺の松原

のりよちん

新子哉

かたはるそとをたきりかたの字は

箱中納言匡房二度師日本入るる

飛尸つらそとをたきりかたの字は

箱崎上三

凡 雑 系  
 かたはるそとをたきりかたの字は  
 二つひんつらそとをたきりかたの字は  
 箱崎  
 松原のいしをたきりかたの字は  
 千代松原、箱崎を松原なりと云ふ  
 よの十里松と云ふ宗祇指南抄に松  
 原南水一里と云はつるや東西取らり  
 十町と云ふりたり廣きなり他國は類な

箱崎上三

一 生乃松原の地はさういふまゝ土地肥鏡  
なまゝにや松言... 他は白砂のいりりあり  
そ雪止庭のさういふ名佳境なり

まよ 新嶋や千代志松原石つら

くつもえ世さうく名なまゝの石を 春あ

今葉石つらといふ昔実賊松原の地

をよめぬ日新嶋乃海邊は石つら

さういふまゝに玉入たつらといふ國知つら

く名付し事古説さましくありたれども

海邊は石垣は多くつらな筑石といへ

新なるへー

阿部嶋 日本紀才九巻は高國ありへ乃

海人の事あり今にありたりと藍嶋と

云い嶋を新島と稱すは... 初葉類詩

葉のさうり阿部嶋とくあり泊の名なり

といひ今も旅船の泊る所なり又振津國

任者郡もあへ給あり阿部野のあり  
日ありやれりよのそり奇りある山岩  
ね務のそえんたのあへつふ湯一橋津  
國まへるは

一万葉十二

玉勝万あへ湯山乃ゆあつ越り

猿ねいそとやあさけ長流有石洋

月二

あへのしき務のそえんたのあへつ

まかここのはやまきりまほけの山郡  
其人

山音

あへきり山音のそえんたのあへつ

名寄

あへきり山音のそえんたのあへつ

あへきり山音のそえんたのあへつ  
通具

あへきり山音のそえんたのあへつ

あへきり山音のそえんたのあへつ  
小治

或説は宗像郡大鳴をあへつと云有あ徳宗は大鳴は  
流るれんたのそえんたのあへつと云有あ徳宗は大鳴は  
大鳴はあへつと云有あ徳宗は大鳴は  
あへつと云有あ徳宗は大鳴は



筑前名寄上巻終

森

森

森  
三田  
三田  
三田

かぬくあへまきとまもわとも  
何部馮の日本紀勢を承集な  
との宗匠より古代の書より  
まきとまもわとも  
まきとまもわとも  
まきとまもわとも

三田名寄上巻終



森

森

森

森

森

